

ホテル学校だより

ホテル保護活動視察バスツアー



実験田の水路 稲沢市NPO法人「祖父江のホテルを守る会」



理事長山内先生の講義



タモですくったメダカ

11月24日（日）稲沢市のNPO法人「祖父江のホテルを守る会」の活動を視察に行きました。

15年にわたる調査及び保護活動が評価され、愛知県知事賞を受賞されています。さらに、国連生物多様性の10年連携事業にも選定されました。私たちのホテル保護活動と何が違うのか？興味津々で出発しました。実験田では、無農薬、自然農法が実践されており、田んぼの端に冬でも水がある水路が作られていました。水路をタモでひとすくいと、たくさんのメダカが入りました。縁にはタニシやザリガニも見られました。田んぼは、湿った状態で田起こしはしないそうです。田植えは稲の切り株の間に交互に植え、古株は腐って肥料になるのだそうです。カメムシなどが大発生しないか尋ねたところ、クモなどの天敵がいるのでバランスが保たれているとのことでした。実験田を見る限り、自然農法では生物多様性が維持されているように思えます。このように「祖父江のホテルを守る会」では、ホテルだけでなく生物多様性を重んじた農の在り方までも視野に入れた活動をされていました。現在、圃場整備された多くの田んぼでは生き物は少なく、メダカなどが絶滅危惧種となっています。いつのまにか、いろいろな生き物がいなくなっているんですね。

思えば、少子高齢化が問題視されています。ふと気づけば、子どもがいなくなっていた。なんてことにならないよう生物多様性について、みんなで考えていきましょう。人間も生物の一つなのですから。

ホテル学校歳時記（No.21） 【戯れる アサギマダラと 藤袴】



秋になると、毎年「アサギマダラは来たか？」という問い合わせが来るようになります。ホテル学校では、ほとんど見かけないので、方々に連絡して情報をつかんで答えていました。

そこで、今年は校庭の花壇に、アサギマダラが好きなフジバカマという花を植えて呼び寄せることにしました。10月に入るとフジバカマが白い花をつけました。10月8日、ついにアサギマダラがやってきました。3頭がふわりふわり舞っています。

アサギマダラは渡りをするので知られており、時には海を渡って2000km以上もの旅をするそうです。実に不思議な蝶です。なぜ、どこへ行くのでしょうか？昆虫なのに一見4本足、羽に鱗粉とよばれる粉もついていません。

フジバカマの花に集まる習性があり、美しい羽でふわふわと舞う姿は山歩きで訪れる方や写真家に大人気です。



「戯れる アサギマダラと 藤袴」



ホテルクイズに挑戦

ゲンジボタルの一生はどれぐらい？

- ①約1週間
- ②約1か月
- ③約1年間
- ④約2年間



※答えは裏面にあります



ホタル幼虫生育状況観察



10月27日（日）ホタルの幼虫飼育水槽をホタルサポーターと鳥川ホタル保存会のメンバーで洗い出しました。7月に生まれた体長1mmの幼虫が、どれぐらい育っているか観察し、同時に飼育水槽の清掃も行いました。今年は餌となるカワニナが不足していたので、幼虫がどれぐらい成長しているか不安でした。洗い出してみると、600頭ほどの幼虫が育っていました。ふ化幼虫は1500頭ほど水槽に入れていたの生存率は40%とまずまずでしたが、小さな幼虫が目立ちましたのでエサ不足であることは間違いありません。

カワニナを供給して、3月下旬の放流式までには大きく育てたいと思います。放流式は、来年2月の市政だよりで参加者募集しますので、ぜひご参加ください。



ホタルの幼虫の仕分けの様子

名月鑑賞会&ナイトウォーク



星空クイズの様子



久田野峠まで歩く

9月14日（土）名月鑑賞会&ナイトウォークを行いました。岡崎星と遊ぶ会の方々からのイラストやクイズを織り交ぜた解説の後、約1,500m離れた久田野峠まで歩きました。古来、お月見は豊作を祝う収穫祭でもありました。ススキや団子や里いもなどをお供えし神様に収穫を感謝したそうです。この日は残念ながら雲で月は見れませんでした。この日の最後には鳥川ホタル保存会の女性スタッフの皆様が温かいお汁粉を作ってくれました。ウォーキングで疲れた体に、とても優しい美味しいお汁粉でした。



ホタルクイズ 【正解】③

ゲンジボタルは6月に産卵され、卵の状態で約1か月過ごします。その後幼虫は川の中で9か月間ほど過ごします。4月～5月に幼虫が上陸し、土手などの土の中で1か月かけて成虫になります。成虫は1～2週間しか生きられません。



とっかわホタルの里の山歩き

11月10日（日）、岡崎市ホタル学校にて巡礼の道トレッキングが行われました。天気にも恵まれ、絶好のトレッキング日和となりました。ホタル保存会の松本様より、今回歩くコースの見どころの解説をしていただきました。ただ歩くだけではなく、事前に各ポイントの名前の由来などを聞くことができ、より一層歩くのが楽しみになりました。わらべの小径、巡礼の道を通って目標地点である額堂山山頂を目指します。途中見晴らし場で休憩を取りました。雲一つなく、三河湾や渥美半島まで見渡すことができました。休憩を挟んだのち、再び額堂山山頂を目指して歩きます。風も弱く、日差しの温かさの心地よい絶好のトレッキング日和となりました。皆さんとても良い顔をされておりました。気持ちの良い時間はあっという間に過ぎ、下山を始める時間となりました。この頃には皆さん慣れ親しんだ様子で、参加者同士の会話も弾み、会話を楽しみながらの下山となりました。地元の方々からお汁粉の振る舞いがありました。山を歩いた後のお汁粉は本当に美味しく、お代わりをする人も続出しておりました。道中では地元鳥川ホタル保存会の方から各ポイントで見どころの解説をしていただきました。また見どころだけではなく、荒れた山々に対する間伐の必要性や、ホタルを育成するために必要な環境整備についてなど多くの気づきもありました。とても充実した半日になったと思います。



額堂山頂で記念撮影